

令和 4 年度熊本城内発掘調査の成果～宇土櫓・続櫓下空堀について～

熊本城調査研究センター 豊永結花里

はじめに

令和 4 年（2022）5 月から 6 月にかけて、宇土櫓・続櫓^{からぼり}下空堀の発掘調査を実施した。本講座では、発掘調査の概要及び現時点での成果について説明する。

1. 宇土櫓・続櫓下空堀発掘調査の目的

宇土櫓の解体保存工事および石垣の復旧工事に先立って、空堀本来の形状の確認を目的とする。

2. 宇土櫓・続櫓の概要

宇土櫓は、三重五階地下一階付きの櫓。南に二重二階の続櫓が取り付けられている。櫓の規模や形式から、天守としての特徴を備えている。創建時期は慶長 6 年（1601）～12 年（1607）と言われている。城内で創建された後、現在の位置に移築された可能性もあるが、創建時期と併せて詳細は不明である。

昭和 8 年（1933）に宇土櫓を含む建造物十三棟が国宝建造物に指定され、昭和 25 年（1950）の文化財保護法の施行により、重要文化財建造物として指定された。

3. 宇土櫓・続櫓修理の歴史

過去の宇土櫓・続櫓修理時に発見された瓦の刻印や垂木の墨書等から、修理が行われた時期が推察されている。なお、昭和 2 年以降は修理に伴う記録が残されている。

元禄年間（1688～1704）	屋根の葺き替え	明治 17 年（1884）	改築修理
宝永年間（1704～1711）	屋根の葺き替え	昭和 2 年（1927）	五階櫓解体修理、続櫓半解体修理
享保 5 年（1720）	部分修理	昭和 29～32 年 （1954～1957）	五階櫓半解体修理、続櫓解体修理
宝暦年間（1751～1764）	屋根の葺き替え	昭和 44 年（1969）	部分修理
文政 9 年（1826）	部分修理	昭和 60～63 年 （1985～1988）	半解体修理

4. 宇土櫓・続櫓下空堀の概要

慶長 17 年（1612）に描かれた絵図「肥後筑後城図」では「からぼり」と表記されている。明和 6 年（1769）の「御城内御絵図」ではさらに詳細な描写がされており、宇土櫓・続櫓の直下及び南側は石垣として表現されているが、西側は土手として描かれている。明治 22 年（1889）の「震災ニ関スル諸報告」においても西側は石垣ではなく土手の表現であるため、西側の石垣は明治 22 年以降に構築されたものと考えられる。

5. 宇土櫓・続櫓下空堀発掘調査事前準備

発掘調査に先立って、発掘調査予定地点で地質調査（ボーリング調査）を実施。

→空堀の底は約 9 万年前の阿蘇山噴火による火砕流堆積物でできており、現地表下約 5 mにある可能性が判明した。

6. 宇土櫓・続櫓下空堀発掘調査の成果

出土遺物、過去の修理履歴等から、大きく次のような堆積。

- ① 昭和 57 年度（1982）宇土櫓・続櫓西側石垣修理に伴う堆積土（築石大の石が多数出土）
- ② 昭和 28 年（1953）西日本水害の被災処理に伴う埋め立て土（水害による土砂を大量に含む）
- ③ 宇土櫓解体修理に伴う堆積土（瓦が大量に出土、漆喰がまじる、昭和 2 年修理時と想定）
- ④ 宇土櫓・続櫓西側石垣構築に伴う堆積土（周辺地点の地質調査結果より想定）
- ⑤ - 1 宇土櫓・続櫓修理に伴う堆積土である可能性（瓦が大量に出土、江戸時代と想定）
- ⑤ - 2 宇土櫓・続櫓修理に伴う堆積土である可能性（瓦が大量に出土、江戸時代と想定）

⇒これから出土遺物の整理を行い、各層のより詳細な時期について検討を行います。

7. 宇土櫓・続櫓下石垣について

今回の調査では、石垣ぎわも掘り下げたことによって地中に埋没している石垣を検出。石垣の基礎となる最下段の石材（根石）まで調査がおよび、以下のような所見を得た。

- ・根石は地山を平坦に切削（根切り）した後に据えられていた。
- ・石垣の下部では、上部と比較して、大きな石材が多く使われていた。
- ・石垣の勾配は一定ではなく、2 か所の変化点を確認した。
- ・宇土櫓・続櫓下石垣の高さはこれまで約 21mと言われていたが、本来は約 25mだった。

【お知らせ その1】

熊本市遺跡発掘速報展で、宇土櫓・続櫓下空堀発掘調査の成果をご報告します。

今回はご紹介できなかった出土遺物の一部や、剥ぎ取った土層を展示する予定です。

現物をぜひその目でご覧ください！

熊本市遺跡発掘速報展

期間：2022 年 12 月 10 日（土）～2023 年 2 月 19 日（日）

会場：熊本博物館 2 階 特別展示室 3

入館料：一般 400 円、高・大生 300 円、中学生以下 200 円

※各種割引があります。

【お知らせ その2】

2022 年 10 月から宇土櫓の解体に向けた工事を開始しました。2023 年頃には宇土櫓が完全に素屋根に覆われてしまいます。工事の様子は天守閣からご覧いただけます！

【参考文献・講座中に提示した資料掲載元】

- ・文化財保存計画協会編集 熊本市発行 1990 『重要文化財熊本城宇土櫓保存修理工事報告書』
- ・熊本市熊本城調査研究センター 2019 『特別史跡熊本城総括報告書 歴史資料編』
- ・熊本日日新聞社・熊本県 1953 『熊本大水害写真集』
- ・熊本城整備研究会 1974 『熊本城整備に関する報告書』
- ・文化庁文化財部記念物課監修 2015 『石垣整備のてびき』 同成社